

あなたは日本女性の真の強さを知っていますか？

三浦綾子 生誕100年

映画『母—小林多喜二の母の物語』にかける思い

原作是三浦綾子さんの小説「母」です。クリスチャンの三浦さんは、無残に殺されたイエスと嘆き悲しむマリヤの絵をみたと、「獄死した小林多喜二を想像した」と語っています。物語の中で多喜二の母、セキは同じ息子を殺されたマリヤに心から同情し、キリストを知ることで救われていきます。

そのセキを演じるのは、寺島しのぶです。彼女は制作発表の席で「原作を読み、セキの海のように広い母性と心の強さを感じた。多喜二という人物を日本人に知ってもらうため、全身全霊を込めて演じたい」と話しました。その言葉通りの熟演をみてください。

監督の山田火砂子は、戦争への危機を感じ、「時代を逆戻りさせない」決意のもとこの作品を作りました。

この映画を観ていただくことで「二度と戦争はさせない」、「希望ある新しい日本」をつくっていく気持ちを強くしていただければと願っております。



映画「母—小林多喜二の母の物語」公式サイト
www.gendaiipro.jp/haha/



秋田県秋田内村、小作農と小さなそば屋で生計を立てる貧しい家の娘にセキは生まれていった。高額な地代のため、貧しい農家の娘たちは身売りするより仕方がない。セキの友達も売られていった。学校に行きたくても、男の行くところだと親は相手にしない。15歳で小林の家に嫁いだセキと夫末松の次男が「蟹工船」等のプロレタリア小説を書き残した作家「小林多喜二」である。昭和8年2月20日に虐殺された作家「小林多喜二」である。セキは優しい母親であった。自分は字もろくに書けなかったが、海のように広い心で子供たちを愛し育てていく。多喜二は叔父の世話で、小樽高商(現小樽商科大学)を卒業し銀行に勤めるまでになる。当時の銀行は高給で生涯楽に暮らせる程



多喜二の死を受け入れられず苦しむセキ。長女チマの誘いで教会を訪れたセキは、イエス・キリストの死の話を聞き、何も悪い事をしていないのに殺されたイエスと多喜二の姿を重ね合わせ、思いを巡らす。



であった。しかし多喜二は貧しい人の味方となって小説を書くという信念を貫き通す。「武器を作るお金で皆に白い米のご飯を」と命掛けて反戦を訴えていく。セキは息子の多喜二を信じ続けた。「多喜二のすること信用しなで、誰のすること信用する」と。しかし危険分子とみなされた多喜二は遂に国家権力の手によって殺されてしまう。「多喜二—もう一度立って見せねか—皆のためにもう一度立って見せねか—」

『われ弱ければ 矢嶋楯子伝』



『われ弱ければ 矢嶋楯子伝』にかける思い——監督 山田火砂子

矢嶋楯子は1833年に、現在の熊本県に生まれ、38歳まで武士の妻でした。洗濯のたらいも男女を分けるなど、極端な男尊女卑の社会で苦労を重ねました。家族への度重なる乱暴を引き起こす酒乱の夫に、身の危険を感じた楯子は、末の子を連れて家出し、離縁状を叩きつけます。女性から離縁を正々堂々と申し出た初の女性が矢嶋楯子でした。楯子の甥には徳富蘇峰、徳富蘆花がいます。

上京して小学校の教員になった楯子は、ミセスツルーというアメリカ人の先生から、女学校の校長先生の仕事をすすめられます。そして洗礼を受けクリスチャンとなり、その後、現在もある女子学院の院長になり、教育界では押しも押されぬ女性となります。1886年、日本キリスト教婦人矯風会の全国組織を結成し、初代会頭となりました。一夫一婦制、婦人参政権、禁酒、廃娯運動など、たくさんの活動に関わり、女性解放運動の元祖と言えます。そして、90歳の時にはアメリカで軍縮会議に出席し、世界平和を強く訴えました。

明治大正という、女性が一人の人間として尊重されることのなかった時代に、女子教育に力を注ぎ、女性解放運動に生涯を捧げた矢嶋楯子。その素晴らしい生き方が、一人でも多くの人の力になればと願いつつ、製作致しました。

この作品に対して、瀬戸内寂聴さん、樋口恵子さん、村木厚子さん、上野千鶴子さん他多くの皆様に賛同して頂いた事に、ここで感謝申し上げます。



最新情報はこのQRコードからご覧いただけます。



https://www.gendaiipro.jp/yajimakajiko/



《文部科学省選定》《法務省人権映画選定》
《厚生労働省社会保障審議会推薦》
《カトリック中央協議会広報推薦》

映画上映会
2023年
9/16(土)
後援: 奥州市

前沢ふれあいセンター チェリーホール
〒029-4208 岩手県奥州市前沢字七日町裏104 / JR東北本線「前沢」駅西口より徒歩5分

① 10:30 『われ弱ければ 矢嶋楯子伝』
② 14:00 『母—小林多喜二の母の物語』

・開場は各回30分前(予定)
・一回につき~2時間30分程(ご挨拶と映画本編110分など)
・字幕付上映

前売券 一般:1,200円 当日券 一般:1,500円
※製作協力券にて入場可。◎1作品ごとの料金です。①と②なら前売券で計2,400円、当日券で計3,000円です。

前売券販売 前沢ふれあいセンター (0197-56-7100)

このチラシをご持参の方は割引料金1,300円になります ※5名様まで

お問い合わせ 現代ぷろだくしょん 03-5332-3991
e-mail:gendaiipro@gendaiipro.jp (平日10時~18時)

各上映前(開演後)
山田火砂子監督
舞台挨拶あり!! (予定)